

学校の共通目標

授業作り	重点	基礎・基本を徹底し、学力下位層のフォローを行う。	中間評価	英語以外の基礎のポイントが全国平均より下回っている。継続して基礎・基本の徹底を行う。	最終評価	
環境作り		授業展開の工夫や家庭学習の定着にタブレット端末を活用する。		各教科の授業展開でタブレット端末の活用を行っている。継続して活用を行う。		

教科の取組内容

教科	学習状況の分析（４月）	課 題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
国語	調新宿区学力定着度調査では第２・第３学年ともに、全国平均とほぼ同程度であり、領域「情報の扱い方に関する事項」と「読むこと」においては全国を上回った。第２学年は領域「我が国の言語文化に関する事項」に、第３学年は領域「書くこと」、観点「主体的に学習に取り組む態度」に課題が見られた。 学日本語や漢字の習得、基本的文法事項の習得が十分でない生徒が多い。 文章や問題文の意味を正確に理解することに課題が見られる。 与えられたテーマに沿ってまとまった量の文章を書くことに苦手意識をもつ生徒が多い。	・基礎的な漢字の読み書きの習得、語彙力の向上が必要である。 ・基本的な文法について、既習事項を定着させる必要がある。 ・自分の考えをもたせ、書く習慣を付けさせる必要がある。	・デジタルドリル、東京ベーシック・ドリルなどの宿題を定期的に出す。語彙に加え、短文づくり、文法等の小テストをこまめに行う。 ・感想や考えの交流を推し進め、書く意欲を高めさせる。150 字程度の課題作文を月に 1 回程度実施する。	調新宿区学力定着度調査において、第３学年は全国平均との差が基礎で 5 ポイント、応用で 6 ポイント下回っており、観点別では、知識・技能が 6.1 ポイント、思考・判断・表現が 4.3 ポイント下回っている。基本的な知識を定着させるために、引き続き、音読・漢字・語彙・文法などの小テストを繰り返し行っていく。 学「書く力」を高めるために、帯単元で課題作文の構成メモ作成の練習をしている。また、実際に作文を書く際には、ワードの校正ツールや原稿用紙設定等も活用し、推敲への意識付けをしている。何度も繰り返し行うことで、書くことへの苦手意識を取り除きたい。	
社会	調新宿区学力定着度調査では第１学年は、目標値を 2 ポイント上だが、第２学年は目標値を 5 ポイント下回っている。特に「歴史的事象の知識・理解」が大きく下回っている。 興味や関心は高くても、それが知識や理解に繋がっていないので、教科書を読み込むこと。単元ごとに、定着確認のためのミニテストを行うこと、東京ベーシック・ドリルなどを活用して、家庭学習の時間をつくることも必要である。 学家庭学習の一環として、デジタルドリルの宿題を定期考査前に配信しても、基礎基本の定着に課題が見られた。 教科書の文章を読むこと、語彙の理解に多くの生徒が課題をもっている。	・どの学年も学力下位層の底上げと習熟の程度に応じた指導が必要である。 ・歴史的、地理的、公民的用語や重要項目にあたる基礎の定着が必要である。 ・上記に関係して、問題文で何を問われているかを、読み取れていない層が多い。 ・資料から何が読み取れるかの、分析能力が弱いので強化する必要がある。 ・日本語の意味（語彙）を、丁寧に伝えていく必要がある。	・基礎基本の定着を目指し、毎時間「ねらい」と「まとめ」を提示して、次の授業でも再確認をしていく。 ・教科書を読む際に、文章内の指示語は何を指しているのかの確認をし、歴史、地理、公民用語は解説していく。 ・社会的関心は高いが意欲が低いので、ＩＣＴ機器を効果的に活用して、視覚的に興味・関心をもたせる。また、生徒にとって身近なことを取りあげ、言葉の意味や用語の意味を理解させる。	調新宿区学力定着度調査では、第３学年は基礎が全国平均より 6 ポイント、応用で 5 ポイント下回っている。特に歴史の「知識技能」が 7 ポイント低い。全体的に下位層が 35%となっているので、基礎・基本のミニテストを繰り返し行う。 学 歴史に関しては、外国籍の生徒も学びやすいよう言葉の概念を伝えながら。区の個別の復習プリントを活用する。上位層を増やす試みとして、振り返り問題を活用し対応したミニテストの回数を増やしていく。また、グラフや資料問題に特化した学習を取り入れていく。	
数学	調新宿区学力定着度調査では第２学年で、「基礎・活用」の校内正答率が区正答率に比べて、3 ポイント以上低くなっている。「基礎・活用」の活用が最も低く、6 ポイント下回っている。また、「観点」の主体的に学習に取り組む態度が最も低く、6 ポイント下回っているため、生徒が関心をもち授業に参加できるようにしていく必要がある。 学分散登校中にデジタルドリルにて課題配信を行った。生徒の進捗状況に合わせて、問題を解かせることができるため、今後も活用していき生徒の基礎・基本の定着を図っていく。	・どの学年にも家庭学習の取り組みに課題があるので定期的に小テストなどを取り入れ、自学自習をするよう促す。 ・基本的な用語、計算を強化する必要がある。 ・既習の学習内容を用いて、自分の考えを表現する活動を増やす必要がある。	・目標、ポイント、まとめを示し、授業で扱う内容を厳選し、宿題をできる限り毎時間出す。その都度教員によるチェックと評価（スタンプ等）を行い、定着化を図る。 ・計算コンテストを長期休業の後に行うほか、定期考査では学年を超えて既習の基礎的な問題を出題する。定期考査における技能観点の達成率で全学年増加を目指す。増加率に応じて次の目標値を決定する。 ・毎回の授業において、どの既習内容を用いているか確認をして進める。生徒への発問の回数を増やし、教員による解説の前に生徒が考える時間を確保できるよう、授業改善を行う。	調新宿区学力定着度調査では第３学年で、全体の目標値より 0.9 ポイント下回っていた。問題内容別では、「データの活用」が最も低く、目標値より 7.7 ポイント下回っていた。そのため、「与えられた表や数値から必要な情報を選択する」ための練習を重点的に行っていく。 学毎授業の始めに、今まで習った内容の復習問題を行うことで、それぞれの苦手分野が分かり、基礎的な学力の向上が見受けられる。 学単元ごとにふりかえりシートを作成させ、学習内容を振り返ることで、今後の課題設定の基準が明確になり、効率的な復習に役立っている。	

理科	【調】新宿区学力定着度調査では第2学年では平均正答率が目標値より3ポイント近く上回った。課題としていた記述式の問題も目標値を2ポイント上回っている。昨年度は基礎の定着を課題としていたが、今年度は唯一全国平均を1ポイント下回った活用力の向上が課題である。 第3学年では教科全体の平均正答率が目標値とほぼ同程度ととらえられるが、活用力よりも基礎力が、また観点の面では知識・技能が目標値を3ポイント下回っており基礎知識の確実な定着が課題となった。記述が4ポイント目標値を上回ったのは、考察文などの表現指導の成果と考えられる。 【学】デジタルドリルの活用と、ワーク・小テストの活用により、基礎基本の向上に効果が見られた。タブレット端末を活用した実験結果の発表等を継続して行うことで、知識の活用力をさらに高めていく。	・全学年とも学力下位層の底上げと習熟の程度に応じた指導を継続していく必要がある。 そのうえで、基礎知識の活用力の向上が必要である。 ・言語の問題もあり基礎・基本の定着が必要である。基本的な知識や概念を理解させると同時に、正しい語句や表現を身に付けさせる。 ・基本的な概念を理解はしていても、記述により説明できない点について、適切な言葉で説明する力を付ける必要がある。	・宿題でデジタルドリル等を利用して基礎の定着を図る。 ・基礎・基本の定着を目指し、授業内で単元ごとに問題演習や小テストを行う。 ・基礎知識の活用力は、問題集の実践編を定期的に宿題として取り組ませ、授業で解説する。 ・図や表を読み取る際に、それらを表す語句を結び付けて覚えさせる。図と語句のセットで繰り返し説明し、必要な生徒には語句の練習を補習しながら、定着を図る。 ・実験の授業では、結果のまとめと考察を丁寧に言い、目的を明らかにしていく過程を踏まえて説明させる。また考察を文章で適切に表現させることを重点的に行う。	【調】新宿区学力定着度調査において、第3学年は全国平均との差が基礎で5.6ポイント、応用で1.3ポイント下回っており、観点別では、知識・技能が5.5ポイント、思考・判断・表現が1.9ポイント下回っている。基本的な知識を定着させるために、デジタルドリルや用語の書き取り練習などを継続して行っていく。 【学】毎授業の始めに、今まで習った内容の復習問題を行うことで、それぞれの苦手分野が分かり、基礎的な学力の向上が見受けられる。用語の書き取り練習をとり入れながら基礎知識を定着させていく。	
	【調】新宿区学力定着度調査から、第2・3学年ともに全国値を上回っていたが、新宿区の値よりは低かった。第2学年は、リスニングの領域において、新宿区の平均値を1ポイント超えていた。 どの学年も観点別正答率では目標値を上回っているが、問題の内容別正答率において、第2学年は「3文以上の英作文」、第3学年は「長文の読み取り」「場面に応じて各英作文」「3文以上の英作文」が目標値をやや下回っていた。どの学年においても「書くこと」についての課題が見られる。 正答率分布から、2・3学年は正答率80%以上の生徒が4割～5割近くいる。他方で、正答率50%未満の生徒がも4割～5割近くいる。生徒の主體的、協働的な学びを育み、創意工夫した授業展開をし続け、学力の全体的な底上げを図っていく。 【学】家庭学習については、個人差が大きく、全体的に課題が見られる。	・学習の習慣化、宿題への取組に課題がある。 ・書くことへの苦手意識を取り除き、英語で表現する機会を多く提供する。また都度、添削指導も行う。 ・基本的事項（既習事項を含む）を定着させる必要がある。	・家庭学習は、なるべく毎時間出し、習慣化を目指す。 ・スペリングコンテストやレポート提出の機会を定期的に設け、正確に書けるよう指導を行う。 ・「書くこと」の力を高めるために、タブレット端末ソフトを利用した課題提出を設定するなどの工夫を行う。 ・すべての授業において、授業基礎基本の確認となるような常学習を位置づける。定期的に発表（スピーチ、スキット等）の場を設け、アウトプットの場面を提供していきたい。少人数授業を効果的に活用し、バランスの良い4技能の定着を目指したい。	【調】新宿区学力定着度調査において、第3学年は全国平均より4.1ポイント上回っていた。基礎については3.5ポイント、応用については5.2ポイント上回ってはいるが、とりわけ「書くこと」が課題である。また、学力母集団のうち上位であるA層が33.9%いる一方、下位層であるD層が22.9%と、学力差が開いていることがわかった。ペア練習やグループ活動を行い、教え合いの場面をより増やしていく。 【学】各学年とも「書く力」を高めるために、単語テストやレポートの課題を定期的に設定している。また、従来の紙に書く課題に加え、デジタルソフトを活用して書く課題も設定している。ALTと協力して添削を行い、本人に還元していく。繰り返し行うことで、書くことへの苦手意識を取り払いたい。 【学】ふりかえりシートを活用し、各学年、毎時間の授業の振り返りをさせている。毎時間のGoalを書き、振り返るという流れの定着をより一層目指したい。	

【調】…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

【学】…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。